

失われつつあるアナログ技術を伝承するため、群馬県で二〇〇七年四月、「群馬アナログカレッジ(アナログ先端技術講座)」が発足する。〇五年度から二年間、経済産業省の委託事業として

波頭旗頭

アナログ人材を育成した。〇七年度以降は県単独事業として再スタートを切る。設立に向けて取り組んできた産官学の思いが具体化する。

「計算上の数値が出ないんですが……」「部品の距離が近すぎるからだ

今春、群馬に育成講座

伝承へ産官学一体 アナログ技術



はんだを手に基板作りに取り組む若い技術者(昨年9月、群馬大学での講座)

よ」。群馬大学で開いた講座には半導体関係のメーカーから若手の技術者十五人が参加した。に実際に作ってみるがほしい。その難しさにアナロ

先端企業からも参加者

グの妙味がある。講師の一人、群馬大学名誉教授の佐々木義智さん(66)は「なぜうまくいかないか考えることが大切」と語る。仕組みや技術なども座学で教えるが「手を動かし失敗すること、でアナログの考え方を身に付けること」が講座の一番の狙いだ。

講座のカリキュラム作成や運営を指揮したのはサンデンOBの細井茂一郎さん(56)。サンデンで十三年間人事を担当。技術者の教育システムを磨いてきた実績から〇五年三月に県からコーディネーターに選ばれた。

「『教えてあげる』という自己満足に走らない」を常に頭に置く。受講生には午前、午後の二回のアンケート提出を求め結果はすぐに講師に伝達。資料や進め方など細かい改善につなげる。〇五年度からの二年間で「生徒と先生の双方を育てるシステムづくりを目指す」。

参加企業を求めて奔走したのは群馬県産業政策課の古仙孝一さん(40)。カレッジ設立運動が本格化した〇三年から県内の電機や自動車メーカー七十社を訪ね歩き、受講者派遣など賛同を呼び掛けた。地道な訪問で五十三社の同意を得た。

経産省とのパイプ役も果たす。「技術伝承に悩む中小メーカーの実情が分かった」と産官学の潤滑油を任じる。三者の歯車がかみ合い回り始めた。

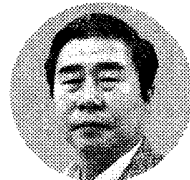
(前橋支局 栗原健太)

技術など指導



群馬大名誉教授
佐々木 義智さん

運営を指揮



サンデンOB
細井 茂一郎さん

企業の協力獲得



県産業政策課
古仙 孝一さん